

令和元年度【自己評価結果公表シート】

幼保連携型認定こども園 萬徳寺保育園

【教育・保育目標】	【基本理念】
素直な子ども	仏教の「人を愛し慈しむ」慈悲の精神に則り、「真理を見極め、正しく生きる力」 知恵を培う保育を実践します。
たくましい子ども	
規則を守れる子ども	【教育保育の基本方針】
命をたいせつにする子ども	すべては子どもの最善の利益のためにやさしく・あたたかく・安らげる保育を行います。
希望に満ちた子ども	
【仏教保育三綱領】	【本年度の重点目標】
慈心不殺 生命尊重の保育を行う	① 子ども主体の保育の提供
仏道成就 正しきを見てたえず進む保育を行う	② 保育環境への配慮
正業精進 よき社会人をつくる保育を行う	③ 職員の資質の向上
	④ 地域における子育て支援の実践と情報提供
	⑤ 小学校との連携

評価項目 (35名集計)	評価				課題・改善点
	前期		後期		
	いる	いない	いる	いない	
1.教育・保育の計画					学年での話し合いを充実させ具体的な保育内容に取り組んでいく。
・園の基本理念・基本方針・目標・仏教保育三綱領を理解している。	35		35		
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、理念・目標を踏まえた全体的な計画に沿って、長期・短期の指導計画を作成している。	35		35		
・乳幼児の発達や実態に即したねらいや内容を設定し、具体的な指導計画を作成している。また、3歳未満児は個別の計画を作成している。	35		35		
・PDCA(計画・実践・評価・改善)サイクルを用いて、質の向上・改善に努めている。	32	3	33	2	
2.保育内容					見通しを持った余裕のある保育を心がけていく。 行事を見直しゆとりのある活動内容にしていく。
・子どもに分かりやすい温かな言葉遣いで、穏やかに話すよう心がけている。	34	1	33	2	
・子どもの名前は、呼び捨てにせず「ちゃん」「くん」で呼んでいる。	33	2	33	2	
・「はやく」「ダメ」等、制止や禁止の言葉を不用意に使わないよう努めている。	29	6	30	5	
・子どもの目線に立ち、気持ちやおもいを大切にしながら対応している。	35		34	1	
・一人一人の発達の連続性や生活の連続性に考慮して生活リズムを整え、見通しをもった保育に努めている。	35		35		
・身近な自然や地域、社会と関わられるような取り組みをしている。	33	2	33	2	
・子どもが意欲的に取り組める環境を用意したり、言葉かけをしている。	33	2	35		
・遊びや生活を通して、人間関係が育つよう配慮している。 (例・社会的ルール・遊びのルール・当番活動・異年齢の交流など)	34	1	35		
・子ども一人一人や集団の育ちに目を向け、記録をもとに省察し、実践にいかしている。	35		35		
3.保健管理					AEDの使用法や感染症対策、アレルギー対応などの園内研修を充実させる。
・日々の健康観察、毎月の身体測定、定期的な健康診断を行っている。	35		35		
・学校保健計画(学校保健計画・学校安全計画)を策定し、計画に基づいて生活安全指導・避難訓練・交通安全指導を実施している。	35		35		
・乳幼児の病気やケガ・疾病予防等の情報提供を行っている。	35		35		
・ストレスと身体の健康を適切に自己管理することができる。	35		35		
4.安全管理					園内研修をより充実させ、素早い対応が出来るようにしていく。
・事故予防・感染症予防・避難訓練・自然災害等に対応するための危機管理マニュアルがあり、訓練や園内研修を行っている。	35		35		
・安全点検(園内・保育室・遊具・ヒヤリハット)を実施し、職員会議を通して結果や改善点を話し合っている。	35		35		
・緊急連絡カードの作成・一斉配信メールの登録・関係機関との連携体制を表示にするなど緊急事態発生時への取り組みを行っている。	35		35		

評価項目	評価				課題・改善点
	前期		後期		
5.食育	いる	いない	いる	いない	
・食育計画に基づき、子どもが落ち着いて食事を楽しめるような工夫をしている。	34	1	34	1	食育計画に基づいた活動の充実をはかる。
・専門医から指示があった場合、アレルギー疾患をもつ子の状況に応じ、適切な対応を行っている。	35		35		
・給食会議の中で意見を交換し合い、連携して食育活動に取り組んでいる。	35		35		
6.特別支援教育					問題意識を共有する。
・特別支援教育担当者を決め、家庭・地域社会・関係機関との連携を図っている。	35		35		関係機関との連携を強化していく。
・特別な配慮が必要な子どもの実態について把握し、他の教諭などと連携を図り、子どもや保護者に対して適切に対応している。	35		35		
・ケース会議のなかで問題意識の共有、連絡事項の確認を行っている。	35		35		
7.組織運営					職員間のコミュニケーションを密にする事で、組織の一員としての意識を高め、職務に積極的に取り組めるようにしていく。
・常にコンプライアンス(法令、服務規定、ルール・モラル・倫理の順守)を意識して行動している。	35		35		
・職務分担表を配布して各係の担当、職務の役割分担を明確化し、管理責任体制の整備をはかり、職員間における「報告・連絡・相談・確認」の連携をとっている。	34	1	35		
・協力体制の重要性を認識し、上司の指示・指導、同僚の意見や助言に耳を傾け、前向きに捉えて、学び続けることができる。また、決定事項・規則・手続き等を守ることができる。	34	1	35		
・各種文書や個人情報(パソコン・USB含む)を適切に管理し守秘義務の厳守・情報の取扱方針を周知徹底している。	35		35		
・時間を厳守し、健康管理にも気を配り、職務に積極的に取り組むことができる。	35		35		
8.研修(資質向上への取り組み)					研修への参加、報告などを通し園内に還元できるようにしていく。
・キャリアアップ・更新講習・その他の研修に参加できる勤務体制をつくり、適切な研修機会を確保している。	35		35		
・保育研究に継続的に取り組み、研修・講習の内容は園内研修を通して還元している。	35		35		
・園内研修や自己評価を定期的に行い、資質向上に努めている。	35		35		
9.情報提供					提供する内容を充実させていく。
・園に関する様々な情報を、園だより・保育参観・行事等を通して伝えている。	35		35		
・ホームページを活用し、広く周知するための工夫をしている。	35		35		
・園の外掲示板等で、地域の人にも情報を発信している。	35		35		
10.子育て支援(地域・社会との連携)					計画に基づく内容の充実をはかる。
・子どものおもいや保護者の悩み、要望などを誠実に受け止め、管理職や他の教諭などと連携を図りながら、問題の解決に向けた適切な支援を行っている。	35		35		
・子どもの様子や出来事を伝え合い保護者との相互理解を図っている。	35		35		
・中高生の保育体験・実習・ボランティアの受け入れに当たり、受入れの意義や方針を理解している。	35		35		
・認定こども園として子育て支援が必須であることを理解している。	35		35		
11.環境及び社会性					各点検表や自己チェックリストを活用していく。
・健康・安全かつ快適に生活できるよう、清潔感のある環境の維持に努めている。また、清掃活動など、すすんで行うよう心がけている。	35		35		
・絵本・教材・用具・用品を適切に活用し、点検整備している。	35		35		
・子どもが好きで、子どもとともに考え、子どもの気持ちを理解するよう努めている。	35		35		
・言葉遣いに気を付け、明るい笑顔と挨拶、礼儀などの社会人としてのマナーをもって行動するよう心がけている。	35		35		
・保育者は、人的環境であることを理解し(爪を短く切る・髪型・髪色・髪が顔にかからなよう結ぶなど)明るく活動的で清潔感のある身だしなみを心がけている。	35		34	1	
・仕事を楽しむ姿勢を持ち、専門性を磨き、人間性を高める資質の向上に取り組む意欲を持っている。	35		34	1	